

陶苑



瑞浪市立陶小学校 学校報
令和7年8月29日 No.5
HP <http://suesho.city.mizunami.gifu.jp/>

夏の思い出を胸に 仲間とがんばる第4期へ

校長 工藤 剛士

長い夏休みを終えて、子どもたちの元気な声と笑顔が学校に戻ってきました。今年の夏は8月後半になっても暑い日が続き、またニュース等で水の事故が多く報道されていましたので、無事に過ごさせているか心配していましたが、夏休み中の大きな事故や病気の連絡はなく、安全に過ごせていたと察します。実際28日の初日ほぼ全員が元気に登校することができました。また休み明け集会では、「夏休みの自分のめあてをやりとげることができましたか？」の質問に「はい！」という返事が多く返ってくるなど、いい夏休みになったと感じました。



休み中、祇園祭に立ち寄ってみると、親子で楽しそうに盆踊りをしたり出店を楽しんだりして祭りを味わい、夏のよき思い出となったと思います。全国的に少子化・高齢化やコロナの影響で祭りの存続が危ぶまれる中、陶の子どもたちには、地域ぐるみで楽しめる昔ながらの祭りがあって幸せだと感じました。また児童館に立ち寄ってみると、各部屋で数人ずつそれぞれが思い思い

に友達と楽しく遊んでいて歓声が響いていました。

夏休み、子どもたちが大きな事故や病気がなく、安全に過ごせていたのは、保護者の方の見届けや励ましのおかげです。また児童館や寺子屋の先生方も含め地域の方々が、子どもたちを温かく見守り励ましてくださったのおかげです。ありがとうございました。

学校が始まり、8月28日29日はほぼ全員が登校し、しかも元気いっぱい学校生活を送ることができました。一般的には、長い夏休み・暑い夏休み明けでは、学校の生活にすぐに戻れなかったり、自由な時間があまりなくなったりすることから、登校をしづる子が全国的には少なからずいるのが現状ですが、陶の子どもたちは元気いっぱいです。

夏休みの研究や作品の発表、展示を見ていると、誰一人同じものではなく、一人一人が自分で決めた研究や作品作りに熱心に取り組んだことがよく伝わってきます。学級での発表では、見てほしいところや頑張ったところを仲間によく伝えるように発表しました。作品票には、その子の工夫や苦勞したところが書かれていて、一生懸命さが伝わってきます。夏休み前に立てた計画のもと、自分を高める夏休みのために、どの子も貴重な夏休みを過ごし、成長していると感じました。

さて、夏休み明けは第4期です。目標は「みんなで団結して作り上げよう」です。夏休み一人で頑張ってきた分、その一人一人の力を結集する運動会（10月25日(土)に予定）に向けて、競技や係の取り組みはもちろんです。日頃の授業や生活も大切にしていきます。ものごとはすべてつながっていて、当日最大限の力を発揮するためには、前日までの取り組みがものを言うからです。

また運動会だけではなく、秋には行事も多くあります。9月の生活科社会科見学、10月の個別懇談、（各地区の秋季大祭）、11月の授業参観とふれあい広場、2回目資源回収などです。子どもたちが、日々の学習・生活を通して、行事も通して夏休み以降もさらに成長できるよう、職員一同、精一杯取り組んで参りますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



